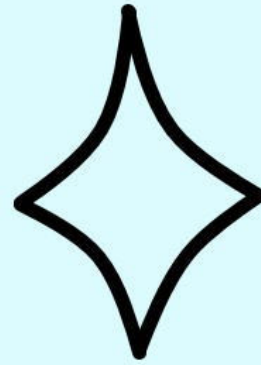
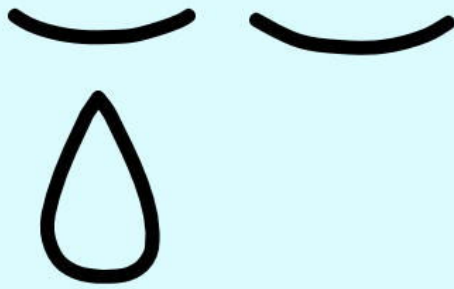




悲しむ者は幸いです



深澤信行 著



# 目次

～ はじめに ～	1
目次	1
●靴のセールス	2
●韓国と中国と日本	3
●悲しむ者は幸いです	4
●悔いた心	6
●この世と調子を合わせてはいけない	7
●生きる	9
●イエス・キリストとは	11
●三位一体	13
●キリスト教の信仰とは	14
●洗礼について	15
●十字架	16
●愛	17
●必然	18
～ 終わりに ～	19
<著者紹介>	20
版の情報	22



～ はじめに ～

「キリスト教ってどういう宗教なんだろう」

そういう疑問を持つ人は多いと思います。特に日本人は、キリスト教の本質を知っている人は少ないのではないかと思います。今、世界の3人に1人は、クリスチャンだと言われています。世界で最も多くの信者のいる宗教がキリスト教です。でも、2017年時点で日本では人口比、わずか1%しかクリスチャンはいません。世界の状況と比べ非常に少ない人数しかクリスチャンがいません。

このことは、クリスチャンである私としては、好ましくない状況だと感じています。

この状況を打破したく思い、私はこの本を書き始めました。この本は、日本人に向けたキリスト教の入門書です。以前、私は『はじめの一步 (2016年11月28日修正版)』という本を書き、現在、無料でネット上に公開しております。そして今、その続きを書いています。一人でも多くの人にキリスト教を伝えたいと思い、この本を執筆しています。それでは皆さん、この本をできれば最後まで読んでください。この本を読む皆さんに神様の祝福がありますように。

2017年5月5日(金) 深澤信行

## 目次

～はじめに～

- 靴のセールス
- 韓国と中国と日本
- 悲しむ者は幸いです
- 悔いた心
- この世と調子を合わせてはいけない
- 生きる
- イエス・キリストとは
- 三位一体
- キリスト教の信仰とは
- 洗礼について
- 十字架
- 愛
- 必然

～おわりに～

## ●靴のセールス

この本を書き始めるにあたり、靴のセールスの話をしたいと思います。有名な話なので、聞いたことがある人もいるかもしれません。

ある未開の地に、靴のセールスをしている人が二人行きました。その地の人々は、靴を履く習慣がなく、誰も靴を履いていませんでした。靴のセールスをしている人のうち、一人は靴を履いている人がいないので、靴は売れないと思ったそうです。もう一方の一人は、皆靴を履いていないので、大量に靴が売れると思ったそうです。同じ状況に直面しながら、片方の人は靴を売れないと思い、もう片方の人は、靴が売れると思ったのです。人は、同じ状況にあっても、考え方が180度異なる場合があるのです。

これを現在の日本の基督教の状況にあてはめてみたいと思います。今の日本はクリスチャンが1%しかいないので、基督教の伝道はうまく行かないと思うのか、それとも、残りの99%の人に伝道することができ、多くの人をクリスチャンに迎え入れることができるのか。私は、多くの人をクリスチャンに迎え入れることができると考えています。この日本には、非常に大きな伝道の可能性があるのではないかと考えています。もちろん、多くの人がクリスチャンに迎え入れられなくても、たった一人でも、私の本を読みクリスチャンになるのであれば、それで十分です。でも、夢は大きくあります。日本で多くの人がクリスチャンに迎え入れられることを希望して行きたいと思っています。

## ●韓国と中国と日本

日本では 2017 年現在、クリスチャンの人口が 1 %しかいませんが、隣国の韓国や中国では、クリスチャンが多くいます。一説によると、韓国では 2017 年現在、人口比 30 %程度のクリスチャンがいるそうです。また、中国では 2017 年現在、人口比 10 %程度のクリスチャンがいるとのこと。

つまり、アジアの国だからと言って、日本のようにクリスチャンが少ないと言うわけではなさそうです。

また、日本では、クリスチャンは少ないですが、そのクリスチャンが社会に与えている影響は大きいと思います。例えば教育関係を考えてみます。ミッション系と呼ばれるキリスト教関係の学校は、たくさんあります。有名人でも、クリスチャンの方が多くいます。政治家にもクリスチャンの方がいます。多方面で活躍されています。

クリスチャンの方が書かれた本で、ベストセラーになった本もあります。例えば、『生き方上手 (日野原重明著)』や『置かれた場所で咲きなさい (渡辺和子著)』などが有名です。私が今書いているこの本は、この 2 冊の本には及びませんが、それでも、たった一人でもいいので、この本を読んでいただければ幸いです。



## ●悲しむ者は幸いです

そろそろ、この本の本题に入って行こうと思います。まず、この本のタイトルになっている言葉を説明したいと思います。この本のタイトルは、聖書の『マタイの福音書』の中のイエス・キリストの言葉です。この部分を引用します。

“「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。  
悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。  
柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。  
義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。  
あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。  
心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。  
平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。”

(マタイの福音書 5 章 3 節～9 節)

この箇所は、“山上の説教”もしくは、“山上の垂訓（さんじょうのすいくん）”と呼ばれる箇所の冒頭の部分です。この“山上の説教”は、イエス・キリストが、山の上でお弟子さん達や集まった群衆に向けて、説教をしたものです。クリスチャンにとって、この“山上の説教”は、キリスト教の憲法のようなものです。

この箇所は、一見すると矛盾するようなことが書かれています。なぜ、悲しむ者が幸いなのでしょうか。通常は、悲しむ者ではなく、喜ぶ者が幸せなのだと思います。でも、この逆説的な言葉は、キリスト教の本質を表していると思います。

悲しむ者、心の貧しい者こそが、幸せになるのです。自分の思った通りに物事が進まず、悲しみの中にある人、自分の力ではどうすることもできない人、そういう人こそが幸せになるのです。

この“山上の説教”に関連し、もう一ヶ所聖書を引用したいと思います。

“しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。”

(コリント人への手紙第二 12 章 9 節)

イエス・キリストの力は、弱さのうちに現れるのです。

自分の弱さを抱え、どうにもならない現実に向き合っているような人こそ、力をもつのです。このことは、不思議なことです。でも、真理なのです。

もう一か所、聖書を引用したいと思います。

“医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。”

(マタイの福音書 9 章 12 節)

ここで、医者と例えられているのは、神様のことです。神様は、罪人や病気を患っている人にとってこそ必要なのです。神様は、そういう人を救ってくださいます。

## ●悔いた心

神様にとって、どのような心の状態が受け入れられるのでしょうか。次の聖書箇所を示したいと思います。

“神へのいけにえは、砕かれた霊。砕かれた、悔いた心。神よ。あなたは、それをさげすまれません。”

(詩篇 51 篇 17 節)

人は、失敗をします。それを悔いて、悲しみの中にいる砕かれた霊を持つ人。そういう人が神様に受け入れられるのです。

強さではなく弱さ、砕かれた霊、悔いた心、今の日本社会から考えると勝者ではなく敗者、社会から相手にされないような人、そういう人こそ、救いにあずかることができるのではないのでしょうか。

旧約聖書に出てくるダビデと言うユダヤの王様は、英雄でした。

でも、大きな罪を犯しました。姦淫と殺人を行ったのです。これは、ユダヤの律法で、死罪にあたります。でも、ダビデはその罪を認め悔い改めたのです。結果的にダビデは救われました。このダビデのようにへりくだり悔い改めると、神様はそれを見ていて赦(ゆる)しを与えてくださいます。

## ●この世と調子を合わせてはいけない

クリスチャンとこの世の関係について書きたいと思います。

聖書には次のように書かれています。この箇所は、イエス・キリストの弟子である使徒パウロによって書かれました。

“この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。”

(ローマ人への手紙 12 章 2 節)

パウロは、この世と調子を合わせてはいけないと記しました。無理にこの世に順応する必要はありません。人付き合いがうまく行かなかったり、職を転々としてしまったり、人によっては、生きづらい世の中だと思います。でも、それでいいのです。次の聖書箇所を引用したいと思います。

“また、悪魔はイエスを連れて行き、またたくまに世界の国々を全部見せて、こう言った。「この、国々のいっさいの権力と栄光とをあなたに差し上げましょう。それは私に任されているので、私がこれと思う人に差し上げるのです。ですから、もしあなたが私を拝むなら、すべてをあなたのものとしましょう。」

イエスは答えて言われた。「『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えなさい』と書いてある。」”

(ルカの福音書 4 章 5 節～8 節)

この世の権力と栄光は、悪魔（サタン）が握っているのです。なので、この世のことで上手く行かなくても、あまり気にする必要はありません。単にあなたは、悪魔に嫌われているだけかもしれません。

失職をしたりして金銭的に厳しい状況におちいることもあると思います。そんな時は、次の聖書箇所を読んでみるといいと思います。少し長い箇所ですが、引用したいと思います。

“だから、わたしはあなたがたに言います。自分のいのちのことで、何を食べようか、何を飲もうかと心配したり、また、からだのことで、何を着ようかと心配したりしてはいけません。いのちは食べ物よりたいせつなもの、からだは着物よりたいせつなものではありませんか。空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養ってくださるのです。あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。

あなたがたのうちだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。

なぜ着物のことで心配するのですか。野のゆりがどうして育つのか、よくわきまえなさい。働きもせず、紡ぎもしません。

しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を窮（きわ）めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。

きょうあっても、あすは炉（ろ）に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくして下さらないわけがありませんか。信仰の薄い人たち。

そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。

こういうものはみな、異邦人が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。

だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。”

（マタイの福音書 6 章 25 節～33 節）

神様は、人間が生きていくのに必要なものは与えてくださいます。お金もたくさんは与えてくれないかもしれませんが、必要な分は与えてくださるのです。この世界を創られた神様が助けてくださるのです。

また、聖書を引用したいと思います。

“だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。”

（マタイの福音書 6 章 34 節）

日本のことわざにも、「明日は明日の風が吹く」とありますよね。

これは、真理だと思います。将来を案じてあまり意味がありません。神様がその都度、状況に合わせて助けてくださるのです。

## ●生きる

生きるということについて、私が感銘を受けた聖書箇所を引用したいと思います。今まで様々なキリスト教関係の本を読みましたが、この箇所を引用した本はありませんでした。もしかしたら、私のこの本が世界初かもしれません。では、引用します。

“あなたの生まれは、あなたが生まれた日に、へその緒を切る者もなく、水で洗ってきよめる者もなく、塩でこする者もなく、布で包んでくれる者もいなかった。だれもあなたを惜みせず、これらの事の一つでもあなたにしてやって、あなたにあわれみをかけようとしなかった。あなたの生まれた日に、あなたはきらわれて、野原に捨てられた。わたしがあなたのそばを通りかかったとき、あなたが自分の血の中でもがいているのを見て、血に染まっているあなたに、『生きよ』と言い、血に染まっているあなたに、くり返して、『生きよ』と言った。”

(エゼキエル書 16 章 4 節～6 節)

生きるということは、時に大変です。血みどろになりながら、なんとか生きている。地面をはいつくばって、苦しみの中、絶望しながら生きる。それでも、生きる。神様はそんなあなたに、「生きよ」と言われる。例え絶望し、八方ふさがりで、どうにもならなくても、「生きよ」と言われるのです。なんと壮絶な聖書箇所なのでしょう。

でも、絶望していて、八方ふさがりでも、時は流れて行きます。この時が流れるということに、わずかな希望があります。私自身、橋から飛び降りて死のうと思い、橋の上まで行ったことがあります。でも、なんとか踏みとどまりました。そんな絶望の中でも、時の経過が自分の周りの環境を変え、自分自身も変えられて行きます。今となれば、なんと穏やかな生活が待っていたのだろう、と思うほどに、平安の中に生活しています。あの時、自死しなくて良かったと思います。

人生と言うものは、時に苦しく、また時に平穏で、そんなものかもしれないと思っています。

重要なことだと思うので言いますが、時の経過に希望を持ちましょう。例えどんなに苦しくとも、生きましょう。

生きよ！

ここまで、この本を書いてきましたが、徐々にキリスト教とは何なのか、その雰囲気がつかめてきたでしょうか？

## ●イエス・キリストとは

イエス・キリストについて、述べたいと思います。キリスト教の中心にいるのは、このイエス・キリストです。この人物は、紀元（西暦0年）に生まれたとされています。厳密に言う、紀元から数年ほどずれていたのではとの意見もあります。生まれた正確な日時は、分かっておりません。このイエス・キリストの誕生をお祝いするのが、クリスマスです。ただ、イエス・キリストが12月25日に生まれたかどうかはさだかではありません。

イエス・キリストは、現在のイスラエルのベツレヘムと言う町でお生まれになりました。イエス・キリストの両親は、このベツレヘムへ用事があり来ていましたが、当時、ベツレヘムにはたくさんの人が集まっており、宿屋がいっぱいでした。それで、普通の部屋には泊まれず馬小屋に泊まっていた。イエス・キリストの母マリヤは、このベツレヘムの馬小屋で、イエス・キリストを生みました。

世界の救い主たるイエス・キリストは、王宮などで生まれになったのではなく、馬小屋でお生まれになったのです。

この馬小屋に、数人の占星術師や博士などと言われている人々が訪ねてきました。この人々は、「3人の博士」と言われますが、正確な人数はわかっていません。この博士たちは、イエス・キリストの誕生を祝うため、東方の国から来たと言われています。

この博士たちは、星に導かれて来訪しました。

クリスマスツリーの一番上には、星が飾ってあるのを見たことがあるのではないかと思います。その星は、博士たちを導いた星を表しています。

そして、この博士たちは、イエス・キリストに3つの贈り物をしました。乳香、没薬、黄金です。この3つは、当時たいへん価値のあるものでした。

その後、赤子だったイエス・キリストは、当時のイスラエルの王様に命を狙われてしまいます。そこで、一家3人でエジプトへ逃亡します。その逃亡費用になったのが、博士たちからもらった贈り物だったのではないかとされています。

その後、命を狙っていた王様が亡くなり、イエス・キリストの一家はイスラエルに戻ってきました。そして、イスラエルのナザレと言う町に住みました。このことから、イエス・キリストのことを「ナザレのイエス」とも言うこともあります。



このイエス・キリストは成長し、およそ 30 歳のころから宣教活動を開始しました。そして、33 歳ごろ、十字架に掛けられ亡くなりました。イエス・キリストが宣教活動したのは、たった 3 年間だったと言われていました。そのたった 3 年で、世界を変えてしまったのです。このことは、人知を超えた出来事だと思います。やはり、超自然的な力が働いたのではないのでしょうか。

イエス・キリストは、この 3 年間に様々な奇跡を起こしました。

水をワインに変えたり、病気を治したり、死者を甦らせたりしました。本当に様々な奇跡を起こしました。また、様々な教を残しました。その多くは、新約聖書の福音書に記されています。この福音書と言うのは、『マタイの福音書』、『マルコの福音書』、『ルカの福音書』、『ヨハネの福音書』のことを言います。この 4 つの書物に、イエス・キリストの活動の記録が残っています。

ですので、イエス・キリストのことを知りたければ、まず、この福音書を読んでみると良いと思います。とりあえず、『ルカの福音書』を読むのをおすすめします。

## ●三位一体

キリスト教は、イエス・キリストを自分の救い主として受け入れる宗教です。イエス・キリストは、救い主であるとともに、神でもあります。少し難しい話をしますが、天にいる“神様”と、地上に降誕された“イエス・キリスト”と、神様の霊である“聖霊”の3つは、キリスト教では、全部神様とされています。この3つは、異なるけど一つの存在なのです。これを“三位一体”と言います。

この“三位一体”の考え方は、人間の理解の限界を超えています。人には分からないことです。3つ葉のクローバーが3つの葉っぱがあるけれど一つであると例えられたりします。他に、水は温度によって、氷になったり液体の水になったり蒸気になったりしますが、神様も同様にその現れ方が3つあると例えられたりします。

ただ、これらの説明は、こじつけのような気もします。結局のところ、今生きている我々の理解の限界を超えている事柄だと思います。

ア리가人間の考えていることを理解できないように、人間が神様の考えていることが理解できないこともあると思います。

人間は、なんでも知性で物事を理解しようとしませんが、人間には限界と言うものがあります。知りたがっても分からないこともあるのです。理屈ではどうにもならないこともあるのです。

逆にもし神様の存在が人間の理解の中にあるのなら、それは、人間が、思い描いた神様であり、本当の神様ではないかもしれません。

神様を理解するのは、なかなか難しいことだと思います。

ただ、神様を知る努力は必要です。聖書を読んだり信仰書を読んだりして、神様がどんなお方であるかを研究してみると良いと思います。

## ●キリスト教の信仰とは

以前、私が『はじめの一步（2016年11月28日修正版）』でも書きましたが、重要なことなので、こちらの本にも記載しようと思います。キリスト教の信仰について書きました。

『ルカの福音書（23章39節～43節）』に出てくるイエス・キリストと共に十字架に掛けられた囚人は、死の間際にイエス・キリストを信じました。この囚人は、おそらく洗礼も受けてないでしょう。良い行いも何もしてないかもしれません。

でも、死の間際にイエス・キリストを信じたのです。ただ、それだけで救われたのです。それが全てなのです。

キリスト教の信仰とはそういうものなのです。

このことは重要なことなので、ここにもう一度記載しました。

## ●洗礼について

キリスト教の神様を信じその信仰に入るには、やはり教会で洗礼を受けた方が良いと思います。もちろん、キリスト教の神様を信じた瞬間に、その人のありようは変化します。そして、救われます。

でも、できれば教会に通い洗礼を受けて欲しいのです。そうすることによって教会生活を送ることができ、霊的な成長をすることができると思います。

霊的な成長と言うと難しく聞こえますが、人間として成長するということです。

子どものような素直な心で神様を信じるのが大切です。その上で、何が大切か、何が大切ではないのか、その判断力を付けて欲しいと私は思います。

その判断の基準は、聖書にあると思います。ただ、聖書を読むのは大変です。聖書を何回も読みその判断力を高めることができれば良いのですが、なかなか大変です。それよりも教会に通い、その教会の牧師さんや信徒さんとの交わりの中で、実践的に成長することが近道なのではないかと思います。

教会に通うことに関しては、私のように精神疾患を抱える人にとっては、難しい場合もあります。教会の人間関係に疲れてしまったり、体調が思わしくなく通えなくなる場合もあります。私自身、あまり教会に通えない時期もありました。最長で、3か月ほど、教会に通えなかったこともあります。

そういう人に、無理に教会に通えとは言いません。でも、信仰を捨てないようにして欲しいと思います。時間があるなら、聖書を読み、祈り、また信仰書を読んだりして、霊的に養われていただきたいと思います。

## ●十字架

イエス・キリストは、33歳ごろ十字架に掛けられ、殺されたとされています。

なぜ、そうなったのでしょうか。

イエス・キリストは、全世界の人の罪を背負って十字架に掛けられたとされています。

我々の全ての罪の罰を、我々に代わって受けられたのです。

この十字架刑により、我々の罪は、赦（ゆる）されることになりました。

イエス・キリストは、このことを事前に知っていました。そうなることを知っていたのです。十字架刑を避けることはせず、その刑を覚悟して受けられたのです。

そして死後、3日目に復活なさります。この復活を記念した日がイースター（復活祭）と呼ばれます。

復活後には、イエス・キリストは、多くのキリストの弟子達の前に現れました。そして、復活から40日後、弟子たちが見ている前で天に昇って行かれました。

イエス・キリストは、死を乗り越えた存在です。

## ●愛

キリスト教において重要なものに、愛があります。愛は目に見えません。『星の王子さま』に次のように書かれています。

「いちばんたいせつなことは、目に見えない。」『星の王子さま（サン＝テグジュペリ著）』

愛に関しては、『コリント人への手紙第一』の13章に詳しく書かれています。そこを一度読まれると良いと思います。『コリント人への手紙第一』の13章から抜粋して引用したいと思います。

“こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。”

（コリント人への手紙第一 13章 13節）

また、愛について、他の箇所も引用したいと思います。

“神は愛です。”（ヨハネの手紙第一 4章 16節）

シンプルな真理だと思います。神様は、愛なる存在なのです。その神様は、あなたを見捨てることはありません。

## ●必然

必然について、説明したいと思います。神様はこの世界を創られる前から全ての出来事を計画し、あらかじめ決められているのです。つまり、全ての出来事は、必然しかないのです。

今、この文章を読んでいる皆さんは、偶然にこの文章を読んでいるわけではないのです。皆さんがこの文章を読むことになるのは、はるか昔に決められていたのです。

～ 終わりに ～

さて、この本を書くのをここで終了しようと思います。

最後まで読んでくださった方にお礼を言いたいと思います。読んでくださりありがとうございました。

この本を読んだ皆さんは、ぜひ聖書をお読みになってください。なぜ、キリスト教徒が世界で一番多いのか、分かるかもしれません。また、皆さんの人生を変える力を聖書は持っています。とりあえず、最初に読むと良いと思う聖書は、リビングバイブルです。このリビングバイブルは、一番読みやすい聖書です。

そして、まず福音書の中の『ルカの福音書』から読むと良いと思います。

では、皆さんの上に神様の祝福がありますように…。



## <著者紹介>

深澤 信行（ふかさわ のぶゆき）



キリスト教プロテスタント

特にどこにも所属していないクリスチャン

統合失調症患者

1973 年神奈川県相模原市生まれ

2004 年 4 月 11 日キリスト教プロテスタント福音派の教会で受洗

日本工学院八王子専門学校卒業

第一種情報処理技術者

HP : <http://fuka.moo.jp>

E-mail : [f@fuka.moo.jp](mailto:f@fuka.moo.jp)

ハンドルネーム : ふかごろう

著書 :

『希望の光 ～統合失調症と信仰生活～』

『はじめの一步～キリスト教入門～』

## 版の情報

初版 2017年5月5日

第二版 2020年8月7日

／—————

価格：無料

---

悲しむ者は幸いです

---

著 者 書籍情報の編集ページから、著者情報を入力してください

制 作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---